

狙うは世界進出！ インパルスシーラーの 国内トップメーカー



富士インパルス株式会社

インパルスシーラーを 実用化して広めた バイオニア的存在

ポリエチレンやポリプロピレンといったフィルム素材の包装材料を、熱で溶着し、密封するのがシーラーの役割。富士インパルスは、独自のなシーラーを数多く創出してきた国内トップメーカーである。主力商品であるインパルスシーラーは、シール部に装備されたリボン状ヒーターに瞬間的に大電流を流し、熱伝導により接着した後、加圧状態のまま自然冷却するという方式。簡単な操作で扱うことが可能なため、小規模な商店等を中心に、農業や食品製造等幅広い分野で使用されている。

昭和31年の創業当初は塩ビ溶接機の製造を行っていた同社だが、ほどなくシーラーを扱うことに。当時アメリカで実用化されたあったインパルスシーラーをベースとして、フレームに伝導性が高いアルミを使用。卓上型の「ポリシーラー」と呼ばれる商品を独自開発した。その後も、「使



う人の身になったものづくり」を合言葉に改良を重ねた。足踏み式や電動式、脱気シーラーや長尺シーラー等、今では約40種類のラインナップを揃え、国内トップメーカーとしての確固たる地位を築いている。

「近年では、電子機器製造や医療・医薬品関連分野にも、当社の技術力が役立っています」と話すのは山田邦雄社長。例えば、超精密部品をクリーンルームから出荷する際にも、同社の密閉技術が活かされている。また、袋を封緘（ふうかん）する際に、同時にICタグを装着することで、在庫管理やトレイサビリティを容易にするICタグシーラーを新たに開発。時代のニーズを的確に読み取った「使う人の身になったものづくり」は今も健在である。

コストダウンと技術革新に注力 次なる夢は世界標準

販売を国内最大手の総合商社に一任したことにより、日本全国に磐石ともいえる販売網を持つ同社。次の目標として、製品のワールドスタンダード化を掲げる。

「技術的には、世界でもトップクラスの自負があります。しかし、世界標準になるかどうかは、価格で決まる部分が大い。そこで1990年代にベトナムと中国に現地法人と工場を設立しました」。汎用機やロボット生産品の製造は海外工場で行い、高付加価値製品は徳島県の三好工場、研究・開発、特注品は本社工場で製造する等、コストダウンに向けた取り組みに力を注ぎ続けている。

「ほかの模倣は絶対にしない、どこまでも自社技術」が、創業以来、変わらぬ企業精神である。「ポリシーラー」の普及期には、台湾製のコピー製品が出回り、輸出货量が圧迫されたこともあった。山田社長は言う。「そんな逆境の中でも、ひたすら研究開発を重ね、価格競争力を磨きながら、画期的な新製品を生み出し続けてきました。たとえ難題を前にしても、一丸となって乗り越えられるチャレンジ精神とチームワークがある。これこそが、当社の原点なんですよ」。

主な事業内容

インパルス方式シーラー等包装機械の製造・販売、塩ビ溶接機、製造・販売、上記機器アフターサービス等



山田邦雄さん
代表取締役社長

富士インパルス株式会社

Company Profile

住所 / 〒561-0834
大阪府豊中市庄内栄町4-23-18
設立 / 昭和31年11月
資本金 / 1,400万円
従業員 / 105名（平成21年1月現在）
TEL / 06-6335-1234
FAX / 06-6335-5719

ISO 9001
ISO 14001

大阪
20

<http://www.fujiimpulse.co.jp/>